

## 1. 自分の地域の課題

### 【分析】

「人口減少」と「高齢化」がもたらす生活機能の維持への危機感が圧倒的です。抽象的な不安だけでなく、除雪や草刈りといった具体的な共同作業（人足）の限界が多くの回答で指摘されています。

- **主なキーワード：**人口減少、担い手不足、高齢化、人足（共同作業）の限界、リーダー不在
- **特徴的な意見：**
  - 「高齢になっても働き続けることになり、地域の人材が不足している」
  - 「地元商店が今後どれ位継続して営業できるのか不安」
  - 「担い手不足は深刻。やりたくても出来ない人も多い」
  - 「横田小学校の今後の使用問題」

## 2. 参考になった点・気づいた点

### 【分析】

講師（兼子氏）の実践事例や姿勢から、\*\*「小さく始めること」と「世代間の連携」\*\*の重要性を学んだ参加者が多いです。特に、高齢者が元気であることが若者を惹きつけるという点に感銘を受けています。

- **主なキーワード：**拠点づくり、特色（アイデンティティ）、非公共（住民主体）、若者に背中を見せる
- **特徴的な意見：**
  - 「若い人に背中を見せるべく自ら行動し続ける兼子さんがカッコいい」
  - 「村からの補助に頼りきらず、独自採算でいける仕組み（角屋の例）」
  - 「何をやりたいかを明確にすることが、人の機運を高める」
  - 「ダメだと思ったらそれは宝（失敗を恐れない）」

## 3. 今後取組んでみたいアイデア・感想・意見

### 【分析】

「横田小学校（旧校舎）」を地域の拠点（コミュニティ）として活用したいという具体的なアイデアが強く出ています。また、新しい組織を作るのではなく、既存の活動を「最適化（仕事を減らす・楽しむ）」する方向性が示されました。

- 主なキーワード：横田小跡地の活用、仲間づくり、既存組織の活用、縮充（仕事を減らす）、楽しむ
- 特徴的な意見：
  - 「横田小を地域の人たちのコミュニティの拠点に！人が集まれる場所に」
  - 「新たな組織づくりは難しいので、あるものを活用・進化させる」
  - 「不必要な仕事を減らし、労働力を最適化させる」
  - 「外部（高校生など）と集落をつないで、楽しく活動するプロジェクト（田植えなど）」

## 4. 気づき・共感

### 【分析】

金山町の現状を悲観するだけでなく、「課題先進地としてモデルケースになれる」という逆転の発想が見られます。また、活動の原動力として「アイデンティティ（地元愛）」や「楽しさ」が不可欠であるという認識が共有されています。

- 主なキーワード：モデルケース、アイデンティティ、縮充、楽しさの共有
- 特徴的な意見：
  - 「金山町の事業展開が全国のモデルケースになり得るのではないか」
  - 「『地域のために何かしたい』という気持ちは、生まれ育ったアイデンティティから来る」
  - 「先輩方が楽しそうなら若い人もやる！」
  - 「お金の問題よりも、住民が何をやりたいか（内発的動機）が大事」

## 5. 疑問・質問

### 【分析】

理念には共感しつつも、「最初の一步（コアメンバー集め）」や「資金」といった現実的なプロセスに対する不安や質問が挙げられています。

- 主なキーワード：資金繰り、コアメンバーの集め方、リーダーのきっかけ、行政支援

- 特徴的な意見：
  - 「資金はどうしているのか（補助金後の自走）」
  - 「中心となる人物（リーダー）やコアメンバーはどうやって集まるのか？」
  - 「組織の設立が一番ハードルが高い。どこに相談すればいいか？」
  - 「仕事としてまちづくりができるのか？（生活の糧になるか）」

---

## 全体のまとめ（総評）

参加者の意識は、「維持困難な現状への危機感」から「楽しみながら自分たちで守る活動」への転換を模索しています。

特に\*\*「横田小学校跡地」という具体的な場所への愛着と活用意欲が高く、ここを拠点とした「無理のない、楽しい活動（カフェ、イベント、農作業）」が、今後の地域づくりの突破口になると分析できます。また、リーダー個人の負担にならぬよう、「チーム（コアメンバー）」での動き出しを推奨する声が多く、次のステップは「数人の有志による小さな作戦会議」\*\*であると言えそうです。

※兼子氏の事例発表への感想で、「行政に頼らない住民有志による地域づくり」への意見が多かったですが、そのやり方は今までの取り組みと同じで、社会状況の変化で活動が終了してしまう恐れがあるなど、成功の可能性や継続性に問題があると考えます。

横田地区に必要なのは、地域を維持するための取り組みとして、行政のバックアップのもとで地域運営組織を設立し、その組織の中で地域ニーズに応じた取り組みを検討していくことが重要と考えます。

過去に地域づくり組織があったのであれば、それを母体にして、地域のニーズ調査などから再始動するのも良いと思います。

まずはそのための作戦会議から始めてみてはいかがでしょうか。